

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
102	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol use and cardiovascular health outcomes: a comparison across age and gender in the Winnipeg Health and Drinking Survey Cohort. 飲酒の心血管系の健康に対する結果 : Winnipeg Health and Drinking Survey Cohort. (ウィニペグ健康と飲酒のコホート研究) における年齢と性別の比較	
執筆者	
Snow WM, Murray R, Ekuma O, Tyas SL, Barnes GE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Age Ageing. 2009 Mar;38(2):206-12. Epub 2009 Jan 7.	
キーワード	
定期的な飲酒、心臓循環器系疾患、たまに多量飲酒すること(HED)、カナダ、男女	
要 旨	
<p><b>背景 :</b> 定期的な飲酒が心臓への保護作用につながるということが研究により確立されている。しかしたまに多量飲酒する(HED)と、こうした有益な作用は出ず、返って心臓循環器系疾患(CVD)のリスクが増加する。 時々の飲酒の健康への影響について年齢がどう関連しているかはまだ評価されていない。</p> <p><b>目的 :</b> 飲酒量・飲酒パターンの心臓循環器系疾患の罹患率と死亡率への関連を調べること。</p> <p><b>デザイン:</b>カナダのウィニペグ、マニトバの地域において行った成人対象の前向きコホート研究。</p> <p><b>対象 :</b> 基礎調査時(1990-91)に 18-64 歳であった合計 1,154 人の参加者(580 人の男性と 574 人の女性)の飲酒量と飲酒パターン。</p> <p><b>方法 :</b> 普段の飲酒量を、量-頻度法で測定した。また、昨年 1 年間で一気に 8drink 以上の飲酒を何回行ったかを参加者に尋ね、HED を推測した。ワイン、ビール、スピリッツについてそれぞれ質問した。 心血管系の病気の発症を 10 年間(すなわち、参加者が最高齢で 74 歳まで)追跡した。Healthy Utility Records (健康記録利用) から CVD の発症診断の情報を得た。Cox 比例ハザード比を性別、若年成人(基礎調査時年齢が 18-34 歳)、中年(基礎調査時年齢が 35-49 歳)、高齢者(基礎調査時年齢が 50-64 歳)で用いた。婚姻状態、喫煙状況、教育レベルを調整した。</p> <p><b>結果 :</b> 通常の飲酒は CVD リスクと関連し、HED はリスク増加と関連していた。 男性の通常の飲酒では、中年・老年層でのみ CVD 予防効果を認めた。女性で通常飲酒に予防効果があったのは、若年成人層のみでした。男性で通常飲酒が最多の群に CVD リスク減少との関連を認めた。一度に多に飲酒することにより、中年男性では冠状動脈性心臓病のリスクが増加し、中年女性ではわずかに有意に増加した。 高血圧のリスクは、より高齢の男性で一度の多量飲酒で増加した。</p> <p><b>結論 :</b> 男性では通常飲酒による CVD リスク減少は、中高年になるまで明らかにならないかもしれません。女性では通常飲酒で男性よりはるかに若い時から CVD リスクが減少するかもしれない。しかしながら、男女ともに、アルコールの一度の多量飲酒で、特に中年・老年男性では飲酒によるこうしたリスク減少は打ち消された。</p>	